

国際機関

国際関係の研究や国際交流・支援を経験したみなさんの中には、「将来、国際機関・援助機関で働いて人々のために力を尽くしたい」と思う方がいると思います。まずは自身の目標を定め、学生生活を通してそれを達成するために必要とされるスキル、言語力、インターンシップや課外活動経験を積みましょう。そして興味ある国際機関についてよく調べその役割を理解し、自身の力を国際機関でどう活かせるかアピールポイントを明確にしましょう。

1. おもな国際機関

- 国際連合 (United Nations) <http://www.un.org/>
- 国連総会により設立された国連の下部機関 (Organizations under the General Assembly)
 - 国連開発計画 (UNDP)、国連環境計画 (UNEP)、国連プロジェクトサービス機関 (UNOPS)、国連人口基金 (UNFPA)、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、国連大学 (UNU)、国連児童基金 (UNICEF)、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関 (UN Women)、世界食糧計画 (WFP) など
- 専門機関 (Specialized Organizations)
 - 国際労働機関 (ILO)、国連食糧農業機関 (FAO)、国連教育科学文化機関 (UNESCO)、国連工業開発機関 (UNIDO)、世界保健機関 (WHO)、国際民間航空機関 (ICAO)、国際海事機関 (IMO)、国際電気通信連合 (ITU)、万国郵便連合 (UPU)、世界気象機関 (WMO)、世界知的所有権機関 (WIPO)、国際農業開発基金 (IFAD) など
- その他の国際機関 (Other Organizations)
 - 国際原子力機関 (IAEA)、世界貿易機関 (WTO)、経済協力開発機構 (OECD) など

2. 職種について

おもな仕事内容を大別すると、専門職と一般職に分けられます。

- 専門職
 - 専門的知識や技術を活かして業務に当たる職員を、P 級職員 (Professional Level) といいます。また、専門職には管理職に当たる D 級 (Director Level) と国際機関の事務局員などの職員も含まれます。職員採用は、空席公告で国際的に行われ、そのポストに合った即戦力となる者が採用されます。職務内容としては、各機関で実施するプログラム (開発、経済、環境など) に直接携わる業務と、それをサポートする官房業務 (財務、人事、総務、広報など) に分類されます。
- 一般職
 - 各国際機関の本部やフィールド事務所において、専門職の下で一般事務を担当している職員で、GS (General Staff) といいます。原則として、各国際機関所在地の現地採用になりますので、個別の機関に直接問い合わせ・応募することとなります。まずは、出身国に国際機関の事務所があるかどうか調べましょう。

3. 求められる資格・能力

語学力をはじめ、柔軟性、統率力、コミュニケーションスキルのほか、専門分野での学位 (修士号以上) や職務経験が必要とされるため、大学院進学を視野に入れた長期的なキャリア・プランを立てる必要があります。国連事務局の職員の平均年齢は 45.9 歳、エントリーレベルの p-2 でも 37.0 歳といわれています。

- 語学力 … 英語もしくは仏語で職務遂行が可能であること
- 学位 … 修士号以上であること
- 専門性 … 学位取得分野での勤務経験など * 一般職、専門職 P1 レベルは学士でも受験資格はあります

4. 国際機関職員（専門職）になるためのおもな方法

●空席公告への応募

国際機関の場合には、空席が生じた場合にのみ国際的に公募されます。公募は、欠員ポストの職務内容と応募者の資格要件を具体的に表示した空席公告が各国国際機関のホームページに掲載されたり、国際機関から加盟国政府などに配布される形で行われます。不定期な採用（そのほとんどがいわゆる中途採用）が基本となります。

●競争試験（National Competitive Recruitment Examinations and Tests）

国別競争試験、一般職から専門職に登用するための競争試験、翻訳官等の語学関連の職員を採用するための競争試験があります。原則として毎年行われ、書面検査・筆記試験・面接により合格者が決定されます。

5. 日本人の場合の、おもな応募方法

●空席公告への応募

応募したいポストがあり、資格要件を満たしている場合、所定の応募用紙を各国際機関のウェブサイトから入手し、適宜作成の上、オンラインで応募します。空席公告は通常、各国際機関のウェブサイト上の「Job」、 「Career」、 「Employment」、 「Recruitment」、 「Vacancies」等の項目をクリックして探してください。

●採用ミッションへの応募

国際機関が日本人職員を増やすために、人事部長などの採用担当者を日本に派遣して面接等を行っており、書面・面接試験を経て日本人が採用されています。

●AE（Associate Expert）・JPO（Junior Professional Officer）などへ応募

AE、JPO、YPP（Young Professional Program）とは、政府が費用を負担の上、国連機関職員志望者に一定期間（原則2年間）国際機関で勤務して必要な専門知識と活動経験を積んでもらい、正規職員への道を開くことを目的とした制度です。書面・面接試験に国連公用語能力が必要です。

●公開競争による国連職員採用試験

外務省が国連事務局と協力して実施、試験分野は年によって異なります。この試験に合格し正式に採用となった場合は、ニューヨーク、バンコク、ジュネーブ、ナイロビ、ウィーンなどの国連事務局に勤務することになります。

●ロスター登録制度の利用

国際機関への採用を希望する人が、自身の経験をあらかじめ外務省国際機関人事センターに登録しておき、資格要件に合致した公募ポストがある場合、国際機関人事センターから直接情報が提供される制度。

登録資格は、日本国籍と修士号（文学・語学・芸術・体育以外）を有し、学位取得分野で2年以上の実務経験があること。なお、世界銀行や国際通貨基金などの国際開発金融機関には適用されません。

6. 国連以外の機関

NPO・・・【Non-profit Organization】

「特定非営利活動法人」と訳される。構成員は私人。政府・自治体や私企業とは独立した存在。市民・民間の支援のもと、利益を追及しない社会的な公益活動を行う組織・団体。

※応募条件はそれぞれの団体で異なる。

NGO・・・【Non-governmental Organization】

「非政府組織」と訳される。構成員は私人。国際機関との協力関係により創立された民間団体で、国際協力に携わる。

※応募条件はそれぞれの団体で異なる。



7. 在学中にできること

● リサーチする

国際機関やNPO・NGOには、様々な規模や使命を持った団体があります。その趣旨に賛同できるか、自身のやりたい仕事があるのかを見極めるためにも、リサーチ、情報収集はとても大切なポイントです。

● 大学で専門性を身につける

前述したように国際機関で働くためには修士号以上の学位が最低限必要です。また、NGO・NPOにおいても高いレベルでの専門性が求められます。しかし、初めから高いレベルの専門性を身につけようとするのではなく、大学の授業で国際政治や国際法、経済学の基礎をしっかりと身につけるようにしましょう。

● インターンシップに参加する

興味のある国際機関などが実施しているインターンシップに参加し、実践的な仕事を通して理解を深めることはとても有意義です。実際にその中で働くことにより、漠然とした自分の考えや知識を明確にすることができます。是非積極的に参加してください。(全ての団体がインターンシップを実施しているわけではありません。各自、団体のホームページで調べるか、または直接問い合わせてください。)

● 留学

アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダなどの英語圏に留学することも検討してみてください。英語そのものを学ぶ目的ではなく、英語で国際関係の研究をすることで、将来必要なスキルを身につける事ができます。また国境を超えた人脈作りにも期待できます。

8. 参考ウェブサイト

- 外務省国際機関人事センター <http://www.mofa-irc.go.jp/>
- 国際協力キャリア総合情報サイト PARTNER <http://partner.jica.go.jp/>
- 国際協力 Station <https://www.idj.co.jp/>
- MOFA list of int'l organizations http://www.mofa.go.jp/about/emb_cons/protocol/organization.html
- International Organizations Careers <http://iocareers.state.gov/Main/Home>